



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 21 年 10 月 28・29 日(土)
今年も東京で米販売！ 編

去る 10 月 28・29 日、常盤ときめき隊の東京販売が京王線 笹塚駅で行われました。このイベント(パフォーマンス)は今年で 6 回目になります。

お米や野菜、漬物など秋田の田舎を 4tトラックに積み込んで常盤を出発！ 荷物の品数・数量はともにこれまでで一番です。残念ながら参加者は 6 名の少数精鋭でしたが、秋田県立大学アグリビジネス学科の学生と教職員 8 名が助っ人として現地合流してくれました。

販売は夕方 4 時～6 時過ぎまでの比較的短い時間ですが、改札口前のわずか 7 坪ほどのスペースは、開始と同時にごった返します。品物を販売する係り、商品の説明をする人、空になったダンボールをたたむ係り、500mほど離れたホテルの二階の会議室からリヤカーで在庫を運ぶ係りなど、みな汗だくで、トイレに行く暇もないくらいです。

お客さんの中には、「去年買った野菜がとてもおいしかった。来るのを楽しみに待っていた。」という方もいます。私たちの何よりの励みは「おいしい」という一言なのです。都会のお客さんは、とても反応が良く、野菜を見る目も意外としっかりしています。そしてマナーも良いのです。あまり大きな声では言えませんが、地元では安く売っているにもかかわらず、値段だけしか見てくれないお客さんもいて残念な思いをすることもあります。

東京販売を始めた当初は、天日干し「あきたこまち」を定期購入してくれる顧客の拡大が目的でした。しかし、手間ひまかけたおいしいお米なのですが、駅の直売ではなかなか主役にはなれません。お米を取り巻く環境の変化、食生活の変化なのでしょう。

何はともあれ、心地よい疲れと「完売」というおみやげを持って帰路につきました。

文：石川 博孝



能代では体験したことのないお客さんの多さです。



少ない人数の中で、手分けして任務遂行。初めの頃に比べれば、格段に馴れました。



長旅の疲れなど微塵も見えないみずみずしい常盤のキャベツ。



本隊&援軍でお疲れ様の記念撮影。また来年も頑張りましょう～